

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770801203		
法人名	アミコ株式会社		
事業所名	グループホームいこいの守・東住吉 第①ユニット		
所在地	大阪府大阪市東住吉区住道矢田7丁目12番32号		
自己評価作成日	平成22年2月15日	評価結果市町村受理日	平成22年6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2770801203&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族的な雰囲気です毎日を送って貰えるようにスタッフも対応している。スタッフの定着率も良いので入居者の把握ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「今日も笑顔と真心で」という事業所の理念が謳われている当該ホームは、大変明るく、広々として、大きな窓からはホームの敷地である広い畑が見渡せ、のどかで温かい家庭的な雰囲気のホームです。職員は理念どおり、笑顔の挨拶が自然に身に付き、利用者の方々に尊厳を保ちながら親しみを込めて接しています。利用者本位のサービスを提供する為に、会議では常勤、非常勤関係なく意見を出し合い、常に全員での話し合いを大切に考えています。その為チームワークが円滑で、離職も少なく利用者と職員、皆でホームを創り上げているという意識を持っています。管理者の信頼も厚く、伸び伸びとケアに当たっている職員に囲まれ、利用者の方々は家庭のように寛いだり、気分転換にレクリエーションを楽しまれたり、戸外の行事に参加したりとその方に合わせた暮らしの支援ができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念として「笑顔」「信愛」「憩い」をフロアに掲げ日々理念を共有し実践に心掛けている。	法人理念を基にした事業所独自の理念を作り、ミーティング等で内容の確認を行い、地域の方や来訪者に「挨拶」「笑顔」の徹底を図っています。明るい雰囲気を意識し、全職員が自然に笑顔と挨拶が交わされ理念が実践されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事に参加させていただいたり、地域のボランティアの参加を募ったりして交流に努めている。盆踊りや敬老会など。	自治会に入会し、回覧板で情報を得て敬老会やふれあい喫茶などの行事に参加しています。近隣の方々に園芸の相談や野菜のおすそ分け、向かいの施設とお茶会をするなど交流を図っています。今後は地域と合同の夏祭り会を開催しさらに交流を深めたいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の役員を通じて地域に貢献できる事等を話し合ったり相互に活かしているように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議を行い、サービスの取り組みを報告して役員の意見を取り入れ話し合い向上に努めている。	会議は家族、町会長、婦人部長、地域包括支援センター職員が参加し開催されています。ホーム側から行事やアンケート結果、外部評価等の報告を行い、参加メンバーからは質問や意見交換、講義等が行われています。徐々にグループホームや認知症の理解の深まりが実感でき、有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括の担当者とは折にふれて話しに乗って貰っている。	市町村へは年1回運営推進会議の報告や、必要な事故等の報告をしています。また市の担当者が来訪時や困った時はその都度相談し関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	歩行不安定や夜間徘徊、不穏時などの対応に身体拘束は行っていない。スタッフの見守り、声掛けにて対応している。しかし、玄関などの施錠はやむを得ず行っている状況である。	身体拘束マニュアルが策定されています。玄関やユニットの施錠については家族から了解を得て行っていますが、開放を目標にその都度状態を見て、職員間で話し合いを重ねています。外出を希望されたら職員が付き添って出掛けています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法について学ぶ機会は未だ取り組めていないが、スタッフ同士コミュニケーションをはかり、相談し防止に努めている。入浴時にあざがないかなど。管理者は行政の取り組み、話し合いに参加している。		

グループホームいこいの守・東住吉 第①ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会は取り組めていないが、入居者の中に後見人制度を利用されている方がいるので学ぶことは自然と出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時、入居時と本人、家族が立ち会いのもと説明し、書類を提示して不安の解消や納得をしていただき密に話をしてサインを貰うように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様には来訪時スタッフや管理者が近況を報告し、それに対して意見や要望などを話し合い反映できるようにしている。利用者に関しては気軽にスタッフへ意見できるような雰囲気作りを心掛けている。意見箱も設置している。	普段の生活の様子や近況を手紙にして、写真と共に月1回家族に送付しています。またアンケートを年1回実施し、行事の際に家族会議も行い、職員紹介や家族同士の交流の場を作り意見を出しやすくするよう工夫しています。出された意見や要望は、その都度話し合い個々に対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議などで自由に意見してもらったり、職員とのコミュニケーションを密にして反映していく努力をしている。	毎月カンファレンスを開催し利用者の状態やサービスについて全職員が発言しやすい雰囲気、活発な意見交換が行われています。管理者は面接や声かけを行い、職員一人ひとりの心情に触れ、話を聞くよう配慮しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年2回の給与査定時に実績、勤務状況を考慮して査定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者に指示をして力量の把握に努める様にしており、又研修の機会をもうける努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者、施設との交流を図り、見学会や、研修などを行い、ネットワーク作りをし、意見交換やサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っていること、不安なこと、要望等を情報として取り入れスタッフ同士で情報を共有し、その人にあったケア、信頼関係を築いていくことを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約、入居、入居後に至るまで家族様の不安や疑問点をわかりやすく説明し、話をする機会を持つようにしている。又ケアプランに反映してサービスの向上に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の相談受付時にモニタリングを実施して相談に乗れるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬意を持って接し、時には家族のように何でも話し合える共に喜怒哀楽を持って対応するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と本人のことについてよく話し合い情報を共有し、支援する側される側、その家族との絆を深めながらサービスの質の向上、支援を心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さん本人に手紙を書いてもらったりと関係が途切れないように維持に努めている。来訪も歓迎している。	入居前からの友人や近所の方が遊びに来られる機会が多くあります。また散歩のコースに利用者が馴染みのある場所を通り、思い出してもらえるように話しをして関係の継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	どうしても利用者同士好き嫌いがありケンカなどもあるがスタッフが仲立ちをして出来るだけ孤立の防止に努めコミュニケーションをはかっている。		

グループホームいこいの守・東住吉 第①ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解除後も家族様からの手紙や季節のはがき、退居された方の余後の経過や相談なども継続し支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に思い入れの家具や道具を持ち込んでいただき、又困難な場合も家族様を通じて聞き取りをし本人本位の生活をしていただけるように努めている。	センター方式を使用し、その方の意向を含んだ言動をその都度記入し埋めていくようにしています。家族にシートを記入してもらったり、カンファレンスで職員から一人ひとりの思いを拾い挙げ、サービス内容を職員全員で話し合い意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはその人らしい生活をしていただくために生活環境を整え、サービス利用の経過をモニタリングし把握、検討を心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の1日の過ごし方、生活情報をスタッフ間で共有し本人が出来ること、支援して欲しいことを把握し、生活の質の向上を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝の申し送りや、個人のケアカンファレンスによりスタッフのアイデアや現状の介護計画の変更などを検討し作成・実践している。	計画は3ヶ月に1回、または状態に変化があるたびにモニタリングやカンファレンスで職員から情報収集し、家族の意向や主治医から話を聴き、見直しや更新を行っています。	日々の生活の中で、その方の楽しみ事や出来ることを見出し、計画の中に具体的に記載されると、介護記録への反映もしやすくなるのではないのでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や生活記録、個人申し送り表などを作成することでスタッフ間の情報の共有に努め見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族様の相談によりケア内容の変更やサービスの紹介、実施など状況を踏まえてどのように関わりを持てば良いか考え支援している。		

グループホームいこいの守・東住吉 第①ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意思を尊重しながら運営推進会議等を通じて多くの役員に支援を依頼できる機会を作ったり民生委員や地域のボランティアの協力で心身の落ち着いた暮らしを支援できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に2回の往診を通じて利用者や家族が納得して診療を受けられるようにしたり、主治医による適時の説明も受けられるようにしている。又家族等の希望で主治医を選んで貰っている。	入居時にかかりつけ医を選んでもらっていますが、ホームの母体が病院であることからほとんどの方が提携医となっています。2週間に1回往診に来てもらい、その際必要に応じて家族が直接説明を受けられるようにしています。随時の往診や24時間連携が取れる体制になっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	馴染みの看護師に気軽に相談したり情報を伝えたり出来るようにしている。又機会を設けては利用者の適切な援助の方法を聞き出せるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同系の病院を軸に情報の共有によって安心した治療に努めたり、早期の退院の相談に乗って貰ったりと信頼関係を維持している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設でも重度化しつつある入居者の家族や医師との連携の元に事業所内での終末期を迎える状況をレクチャーしたりスタッフ内の情報の共有に努めている。	入居時にホームとしての重度化した場合の対応の方針について説明しています。以前重度化が進んだ利用者の対応について、職員間で何度も議論し、家族や医師とも話し合いを重ねました。今後自然の流れで看取りまで受け入れる事例の発生も踏まえ、職員の不安を解消していけるように、時間をかけて方針や方向性を更に固めていきたいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に対しては職員は定期的話し合っており、経験者からは手当の方法や対処の仕方を伝えて行くようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を通じて誘導方法を検討したり災害時の誘導場所を全員が把握できるようにしたり連絡網を作りして意識を共有するようにしている。	自主訓練と消防署立ちあいのもと、年2回昼間想定で避難訓練を行っています。避難訓練の実施についてはチラシを配布し地域の方にお知らせしたり、運営推進会議で協力が得られるよう声をかけています。	避難訓練の場面設定について、夜を想定した内容の訓練を一度実施されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護には入職時のオリエンテーションや文書で自覚を促したり入居者の誇りを損ねないような言葉掛けに努めている。	一人ひとりに合わせた言葉かけや対応を変え失礼のないよう配慮しています。排泄介助の際には細心の注意を払い、言葉に出さずに対応するなど尊厳の確保に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ入居者自身が自己決定ができるような働きかけをスタッフも心掛けて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフもペースを大切にして暮らして貰えるように支援していける努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の度の衣服の選択をできるだけ自分で選べるように支援したり、整髪に対するうながしをしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	カウンターにメニューを出してみたり、利用者と一緒に調理したり、味を見てもらったり、取り分けや配膳片付けなども出来る限り協力して貰っている。	同じ方ばかりが携わることのないよう配慮し、それぞれのできる範囲で下ごしらえや配膳、片づけを手伝ってもらっています。食事は職員も同じものを同じ食卓で摂り、団欒の時間を楽しめるように配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは管理栄養士が考えたメニューにて必要量摂取できている。水分量などは1日1500以上を目標として毎日の水分量を記入し1日の終わりに合計量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者に声掛けや介助により口腔ケアの援助を行っている。週に1度衛生士によるケア管理も行われている。		

グループホームいこいの守・東住吉 第①ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の生活記録に排泄時間を書き込むことにより、習慣やパターンをスタッフ全員が把握する事で自立に向けた支援を心掛けている。	排泄パターンを把握することで、基本的にはおむつを使用しないように支援しています。失敗が少なくなったり、一人ひとりが今の状態から自立に向かえるよう方向性を定め、家族と相談しながら進めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の体質を把握し、牛乳やヨーグルト等の飲食物の工夫で予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1階2階と入浴を行い希望やタイミングに合わせて入浴を行っているが時間帯などはスタッフの人数に合わせてこちら主体で入浴してもらっている状況である。	1週間に4回入浴日を設定し、少なくとも週に2回は入浴して頂けるように支援しています。入浴時間は午後から夕食前の希望時間になっていますが、希望があれば他の時間も対応したいと考えています。入浴拒否の方もタイミングや声かけの方法を工夫し入浴して頂いています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣を尊重し体調や状況に応じて休息したり、夜間も安心して眠れるよう支援を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	生活記録ファイルに個人が服薬されている用法や用量、副作用について記入されており、スタッフ間で情報を共有し理解し、服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴を活かし楽しみを見つけられるように援助している。レクリエーションに取り入れたり、気分転換に買い物に行ったりカラオケや化粧など様々な楽しみごとを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により外に出たいときはスタッフ同行の元支援に努めている。散歩や買い物なども声掛けをし、出かけられるようにしている。また、家族様の協力のもと外食や旅行なども支援している。	外出の機会を多く持つよう心がけ、天気の良い日は散歩は日光浴してもらっています。散歩する利用者の方が偏ることのないように配慮しています。花見や公園への遠足、テラスでの花火会やそうめん流し、いも掘り、餅つきなど、戸外での行事を多く取り入れています。	

グループホームいこいの守・東住吉 第①ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が可能な方には自分で管理していただき、希望に応じて買い物などにも同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望を尊重し電話や連絡がしたいときは家族様等に取り次ぐ支援を行っている。手紙やはがきなども希望があれば同行にて出しに行ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間等には利用者の敏感な反応に気を配り廊下や移動空間には物を置かず安全にも配慮をしている。又季節感を感じて貰うように装飾をしたりして生活環境を工夫している。	雑壇が入り口に飾られ、季節の花が随所に飾られています。リビングの真ん中に台所があり、広々と見渡せる開放感があります。一人用の椅子をテレビの前に置いたり、ソファをベランダ方向にさりげなく置く事で、ほっとできる落ち着いた空間スペースの確保ができています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自の居室を持っておられるので、友人の来訪や気のあった利用者との個別の時間を作っていただけるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より馴染みの物を持ってこられ、本人が違和感なく過ごせるように工夫している。	入居前に使っていた、たんすやドレッサー、三面鏡や仏壇、お気に入りの絵など、家からもってきてもらい、居心地よく過ごせる配慮をしています。家庭的な雰囲気の木目調のベッドは備え付けで、洗面台も各部屋に整備されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ自立を促すために、トイレの位置や自室の位置、曜日の確認、時間の確認が出来るような工夫をしている。		